

接辞「～ング (-ing)」が外来語サ変動詞に与える意味役割[†]

南 亜希子

金沢大学大学院 人間社会環境研究科

akim373.1608@gmail.com

概要

本研究では接辞「～ング (-ing)」を取り上げ、外来語接辞が日本語の語彙に与える意味役割について検討を行う。分析では『国語研ウェブコーパス (NWJC) 梵天版』のコーパスデータを用い、{ポスト/ポスティング}する、{タップ/タッピング}する、{ブロック/ブロッキング}するの3組における共起語を比較した。その結果、いずれの例においても「～ング」の有無によって共起語のジャンルが異なり、特に「～ング」付加形の方が専門用語としての使用が多い傾向にあると分かった。したがって「～ング (-ing)」には、非付加形よりも語の使用範囲を区別・狭くする役割があると考えられる。

1 はじめに

日本語における外来語(カタカナ語)が難解であると叫ばれることは今に始まったことではないが、その原因の1つに外来語の意味理解が挙げられる。それらの問題の中には語の形態、具体的には外来語接辞との関連もあると考える。例えば本稿で取り上げる「～ング (-ing)」は、「現に～している(すること)」というイメージ[1]が想起され外来語でも多用されているが、原語と借用後のカタカナ表記とで形態のずれが起こっている問題や、「～ング (-ing)」付加の有無による意味の使い分けが明確になっていないという問題もある。

本稿では、外来語接辞「～ング (-ing)」が有する意味役割を、日本語コーパスにおける量的分析から検討する。

2 先行研究

「～ング (-ing)」が付加する外来語サ変動詞について言及された研究は澤田やビタン、国立国語研究所[2,3,4]などが挙げられる。

澤田[2]では、原語において動名詞形を有するものが日本語に借用されても「～ング (-ing) する」が

付加しやすく、「{*ブラシ/ブラッシング} する」のように「～ング」が付くことで具体物から何らかの行為を指す語へと変化される旨が示唆されている。加えてビタン[3]では、日本語に借用されている「～ング」が付加する外来語のうち、原語(英語)において動詞としての意味が優先されている語の方が「～ング」が付加してサ変動詞化しやすいことを明らかにし、日本語母語話者にとって「～ング (-ing)」が動作性を強めるために有用な接辞であると考えられている旨を示唆している。また国立国語研究所[4]では、「メジャーカップ (measuring cup/*measure cup)」や「ドライビングスクール (driving school/*drive school)」などの語を例に挙げ、借用時に「～ング」が付加する語とそうでない語が混在しているにも関わらず、どのような語に「～ング」が付加するかについては言及されていない点を指摘している。

以上のように、「～ング (-ing)」が付加する外来語(動詞形も含む)について言及された研究は散見されるものの、そもそも何故外来語に「～ング」の付加形と非付加形の両方が見られる場合があるか、「～ング」が語に与える意味役割はどのようなものであるかは明らかになっていない。本稿では、「～ング」の付加形と非付加形の語双方を比較し、「～ング (-ing)」が有する意味役割について検討する。

3 分析方法

本研究では、『国語研ウェブコーパス (NWJC) 梵天版』ⁱの「～ングする」の検索結果を使用し、KH Coderによる対応分析から対象語がどのような文脈や場面で使用される傾向にあるかを分析する。

『国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)』とは、ウェブを母集団としてテキストの採取・構築が行わ

[†] 本発表は、2022年1月7日に金沢大学大学院人間社会環境研究科に提出した修士論文の一部である。
ⁱ 当コーパス梵天版は、2021年12月24日をもって公開終了された (<https://masayu-a.github.io/NWJC/>, 2022年1月5日最終閲覧)。

れた 100 億語規模のテキストコーパスである[5]. 本コーパスの母集団がウェブ資料であるゆえ、特定の語におけるレジスターや話者属性等が見えにくいという短所もあるが、NWJC の規模の大きさから他コーパスでもヒット件数が少なかった（または 0 件であった）語のデータ収集も容易となる。また、『梵天』にて公開されていたデータの収集時期が 2014 年 10 月から 12 月と比較的新しいことから、より現在に近い言語使用状況が明らかになると考えた。なお、検索には検索系『梵天』の品詞列検索を用い、検索画面から「『対象語〈表層形〉』+『動詞〈品詞 1〉、サ行変格〈活用型 1〉』」と検索した。

NWJC によるテキストデータの収集後は、KH Coder を用いた内容語ⁱⁱのみの対応分析を行った。対応分析を行うことによって、複数群との間における抽出語の特徴語の相関を、2次元の散布図で視覚的に見ることが可能となっている[6]. 本研究では「〜ング(-ing)」が付加する外来語とその非付加形を比較し、それぞれの語にどのような語が共起するか、その相違により「〜ング」にどのような意味役割を有するか、という観点から分析を実施した。

また対応分析に加えて、対象語のコロケーション統計も行なった。テキストデータを目視で確認したところ、対応分析の散布図では出現していないが「〜ング」付加形と非付加形それぞれの語を特徴づけるために重要となり得る共起語が複数見られた。具体的な手順としては、同ソフトウェアの KWIC コンコーダ機能から対象語の検索を以下の表 1 の通り行い、ダイス (Dice) 係数が高い順にコロケーション統計の集計(集計範囲: 左 5~右 5)を行った。

表 1 KWIC コンコーダによるコロケーションの抽出方法

抽出語	追加条件
ポスト	
ポストイング	
タップ	位置: 抽出語: 品詞:
タッピング	+ 右 1 する 動詞 B
ブロック	
ブロッキング	

ⁱⁱ 本稿では KH Coder の分析機能で選択可能な品詞のうち、「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」「数詞」「固有名詞」「未知語」「タグ」「動詞」「形容詞」「副詞」「名詞 B」「動詞 B」「形容詞 B」「名詞 C」が内容語に相当するとみなし、分析対象とする。

なお、本研究で取り上げる「〜ング (-ing) する」及び「〜ング (-ing)」非付加形の動詞は、以下の 3 例である。

- {ポスト/ポスティング} する
- {タップ/タッピング} する
- {ブロック/ブロッキング} する

4 分析結果

4.1 {ポスト/ポスティング} する

NWJC の検索結果では、「ポストする」は 3679 件、「ポスティングする」は 2750 件出現した。以下の図 1 に分析結果の散布図 (語の最小出現数: 100) を示す。

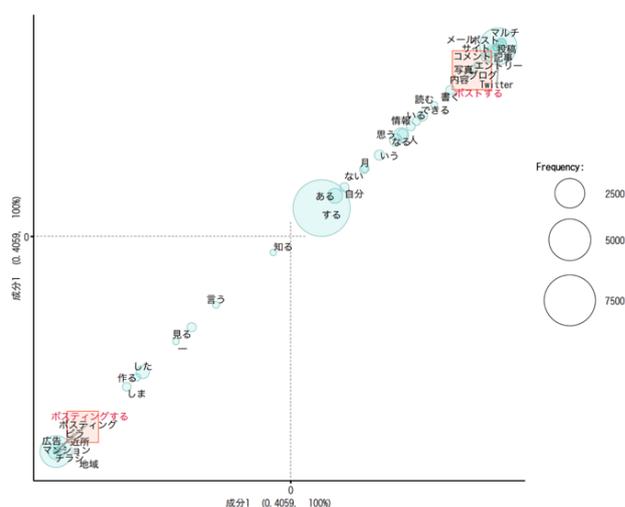


図 1 {ポスト/ポスティング} する の 対応分析結果

「ポストする」の共起語では、「コメント」「ブログ」「サイト」「エントリー」「投稿」「Twitter」「メール」など、インターネットに関する語が多く見られた。その一方「ポスティングする」では、「チラシ」「広告」「近所」「マンション」「地域」「ピラ」「作る」などの語が特徴的だと示された。以下の(1)(2)は、NWJC で出現した {ポスト/ポスティング} する の例文である。

- (1) 尚、このエントリーは FC2 ブログ、Seesaa ブログ の両方に ポスト しています (『Sheep Track 2.2』, 下線・波線は発表者による)
- (2) DM 配布会社によっては指定した地域全てに、チラシや案内を ポスティング する「全域配布」という配布方法もありますので、お近くの住宅地をターゲットに 全域配布 をかける

という手もあります
 (『がんこおやじのブログ』)

4.2 {タップ/タッピング} する

NWJC の検索結果より、「タップする」1000 件ⁱⁱⁱ、「タッピングする」812 件を分析した結果、以下の図 2 (語の最小出現数：40) のようになった。

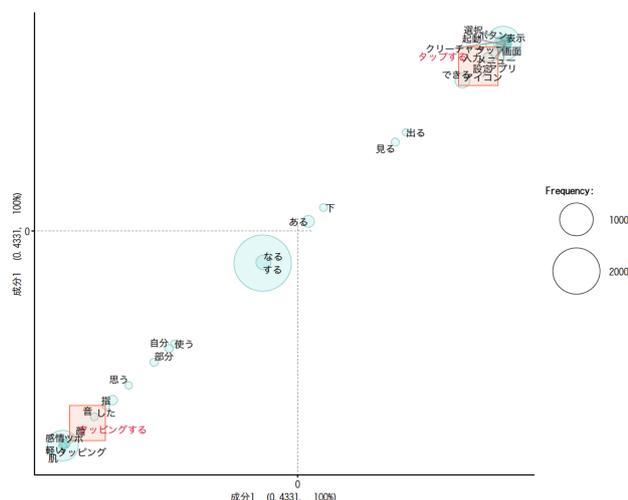


図 2 {タップ/タッピング} する の対応分析結果

上図より、「タップする」は「選択」「画面」「アプリ」「ボタン」「アイコン」「入力」など、スマートフォンなどのタッチパネルを有する電子機器やその操作に関する共起語が見られた。また、散布図における「タッピングする」では、「肌」「軽い」「ツボ」「顔」「指」など、マッサージの動作や美容に関する語が出現した。

加えて「タッピングする」では、ダイス係数も観察した結果、「ギター」「フレット」「ネジ」などの語も共起していた。これらはギター等の演奏技術「タッピング奏法」や、工具を使ってネジを締める

ⁱⁱⁱ 本稿の {タップ/タッピング} する及び {ブロック/ブロッキング} するの NWJC データについては、「～ング」非付加形と付加形との語の件数に大きな差が生じていた。(「タップする」27022 件、「ブロックする」43029 件、「～ング」付加形は本文で報告した件数と同じ) そのため、「タップする」「ブロックする」は『梵天』でデータを取得したのち、1000 件のランダムサンプリングを行った上で分析を行なった。ランダムサンプリングでは、発表者自身で Excel を用いて取得データ全文に RAND 関数で乱数を与え、上位 1000 件(降順)を抽出するという手法をとった。

こと[7]を指す「タッピング」を表すと考えられる。「タッピングする」に特徴的な共起語一覧は、以下の表 2 の通りである。

表 2 「タッピングする」に特徴的な共起語一覧

語	品詞	合計	左合計	右合計	Dice
ギター	名詞	13	10	3	0.031
ベース	名詞	7	4	3	0.017
弦	名詞 C	6	5	1	0.015
ネジ	名詞	5	3	2	0.012
ピアノ	名詞	5	4	1	0.012
フレット	未知語	5	5	0	0.012

本節の内容を踏まえ、以下の(3)(4)に「{タップ/タッピング} する」の例文を示す。

- (3) スマートフォンサイトから地図を検索し、トイレアイコンをタップすれば地図上にアイコンが表示される仕組み
 (ITmedia Mobile 『スマホ版マピオンで「多機能トイレ検索サービス」がスタート』)
- (4) 3回トントンとつけて後は肌^にタッピングしていきます
 (『ここあんの綺麗になる法則』)

4.3 {ブロック/ブロッキング} する

NWJC のテキストより「ブロックする」1000 件ⁱⁱⁱ、「ブロッキングする」996 件のデータで対応分析を行った。その結果の散布図(語の最小出現数：40)を以下の図 3 に示す。

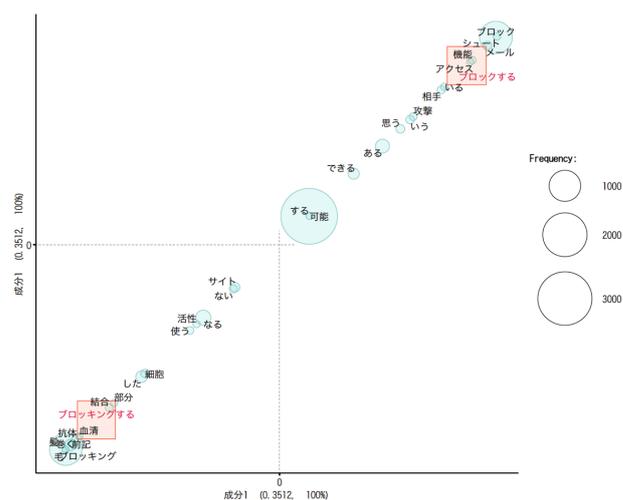


図 3 {ブロック/ブロッキング} する の対応分析結果

上図の結果より、「ブロックする」では、スポーツ(特にサッカー)や IT・インターネットにおける「シュート」「メール」「機能」「アクセス」「攻

撃」などが共起した。また、ダイス係数を算出したところ、「花粉」「紫外線」「メラニン」なども特徴的な語として出現していた。以下の表3に、「ブロックする」に特徴的な共起語を示す。

表3 「ブロックする」に特徴的な共起語一覧

語	品詞	合計	左合計	右合計	Dice
花粉	名詞	15	11	4	0.030
紫外線	名詞	13	13	0	0.026
メラニン	名詞	6	5	1	0.012

一方、図3の散布図に出現した「ブロッキングする」の共起語は、「髪」「毛」「巻く」「抗体」「血清」「結合」「部分」「細胞」「サイト」などであった。以下の(5)~(7)は「{ブロック/ブロッキングする}」の例文である。

- (5) SPF20・PA++あるので日常の紫外線はきちんとブロックしてくれるので安心できます
(『キレイナビ』)
- (6) 髪を細かくブロッキングして、毛先が染まらないようにラップでくるんでゴムで留めてから染色したんだけど、かなり面倒くさかったです(汗) (『Happy little Vegemite』)
- (7) 細胞は、60時間70%エタノールで染色し、PBSで三回洗浄し、そして15分間5%血清アルブミンでブロッキングした(ekouhou.net 『前立腺癌治療組成物及び前立腺癌治療組成物の有効成分のスクリーニング方法』)

5 考察

本研究の分析では、接辞「〜ング (-ing)」が有する意味役割を探るため、日本語コーパスにおける接辞付加の有無による共起語の相違を対応分析等で調査した。その結果、3例共通して「〜ング」付加の有無で共起語が異なっており、とりわけ「〜ング」付加形では、特定分野における専門用語としての使用も散見された。

以上の結果を踏まえ、日本語における外来語接辞「〜ング (-ing)」には、以下の役割を有すると考える。

- 外来語接辞「〜ング (-ing)」が持つ意味役割の仮説：
先行研究で指摘されてきた「動作性を強める」役割に加え、非付加形の語と大まかな動作のイメージを共有しつつも、「〜ング (-ing)」の非付加形よりも語の使用範囲を区別・狭くする(特定の場面でしか使わ

れない語や専門用語として使われる傾向にある)。

今回取り上げた語では、原語における動詞の意味が外来語にも借用されており、「〜ング」が付加していない状態でも「動作」の意味を既に有していると考えられる。それでも「〜ング」が付加する形が見られるのは、先行研究でも示唆されていたように、動名詞・動詞の意味を有する語と「〜ング」との親和性が高いためであり。今回の分析結果でも「〜ング」の役割の一つとして「動作性を強める」点を有することは否定出来ない。

そして、「4 分析結果」の章にて3例の分析を行った結果、いずれの例も「〜ング」付加の有無によって文や共起語のジャンルが異なることが明らかとなった。本稿の事例を見ると、「{ポスト/ポスティング}する」では「投函・投稿する動作」、 「{タップ/タッピング}する」では「(軽く)叩く動作」、そして「{ブロック/ブロッキング}する」では「事物の阻害・遮断を行う動作」を共有している。このような大まかな「動作」自体は「〜ング」付加の有無で大きく変化しないものの、使用される場面がそれぞれ異なることによって、「〜ング」には非付加形と語の使用範囲を区別させる役割があると考えられる。

6 おわりに

本稿では、外来語接辞が有する意味役割が明らかになっていないという課題から、「〜ング (-ing)」を例にその検討を行なった。{ポスト/ポスティング}する、{タップ/タッピング}する、{ブロック/ブロッキング}するの3例の共起語をそれぞれ検討した結果、3例全てに共通して「〜ング」付加の有無によって共起語のジャンルがそれぞれ乖離していた。この結果を踏まえて、日本語の外来語における接辞「〜ング (-ing)」には、「動作性を強める」役割に加え、非付加形の語と大まかな動作のイメージを共有しつつも、「〜ング (-ing)」の非付加形よりも語の使用範囲を狭くする役割があることが示唆された。

最後に、今後の課題として以下の3点を挙げたい。

- 他ジャンルのコーパスにおける「〜ング (-ing)」の使用状況の調査
- 他の外来語接辞の事例検討
- 通時的観点からの調査

参考文献

1. コア理論で文法指導を⑩ 文法の意味から状況の意味の構成へ！—実践指導例③：動詞の～ing 形—. 佐藤芳明, 河原清志, 田中茂範. 12, 文京区：大修館書店, 2008年, 英語教育, 第56巻, ページ: 52-54.
2. 日本語教育のための基本外来語について. 澤田田津子. 1, 奈良市：奈良教育大学, 1993年, 奈良教育大学紀要（人文・社会科学）, 第42巻, ページ: 225-239.
3. 機能形態素-ing を含んだ外来語の形態・用法の特徴 —「～する」動詞化の可否をめぐって—. ビタンマダリナ. つくば市：筑波大学大学院博士課程人文社会系, 2016年, 筑波日本語研究, 第20巻, ページ: 50-74.
4. 国立国語研究所. 日本語教育指導参考書 16 外来語の形成とその教育. 東京都北区：国立国語研究所, 1990. <http://doi.org/10.15084/00001840>.
5. 『国語研日本語ウェブコーパス』とその検索系『梵天』. 浅原正幸, ほか. 2, 千代田区：情報処理学会, 2018年, 情報処理学会論文誌, 第59巻, ページ: 209-305.
6. 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—. 第2版. 京都市：ナカニシヤ出版, 2020.
7. 三省堂編修所(編). コンサイスカタカナ語辞典. 第5版. 千代田区：三省堂書店, 2020.